

様式第2号(第10条関係)

会 議 結 果 の お 知 ら せ

1 開催した会議の名称

平成27年度第5回佐伯市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進審議会

2 開催日時

平成28年2月16日（火）13時30分から15時30分まで

3 開催場所

佐伯市役所 本庁舎 6階 第2委員会室（佐伯市中村南町1番1号）

4 出席者

- (1) 委員：（会長）御手洗吉徳、（副会長）出水薫、笹田哲史、清家修、太田博士、
西條隆洋、脇田文明、古田浅男、柳井康彦、佐藤美穂、江川俊彦、久下律、
白石哲也、染矢芳樹、疋田秀美、佐藤政代、岩尾美穂

委員 28 名中 17 名出席

- (2) 市職員等：総合政策部長 久保田与治郎

（事務局：秘書政策課）課長 武田晴美、政策推進係 岩切亮佑

計 3 名

5 公開、非公開の別

公開

6 傍聴人数

0人

7 議題及び結果

(1) 議題

- ア 地方創生先行対策事業（平成 27 年度実施）について
イ 平成 28 年度当初予算編成に向けた取組について
ウ 今後のスケジュールについて

(2) 結果

次回会議の開催方法及び内容について、意見をいただき、事務局で検討することとなった。

8 審議の内容

会長が議長となり、議事を進行した。資料について、事務局が説明をした後、

意見交換を行った。

(意見交換)

委員 こういった形で計画が先行して出来ましたけど、来年度から見直しをという様な文言も入っております。良いことだなという様に思うのは、計画というのはあくまでも状況が変わってきますので、その状況に合わせて計画を見直していくという事は、勇気を持ってやらなければいけないという様に思います。予算がついて事業がスタートした、絶対やらないといけないという様な事ではなくて、むしろこの事業はもう不要だとか必要でなくなるという部分がもしかしたら出てくるかも知れないので、そういう時に勇気を持って決断するという事も必要だろうと思いますので、私たちもこの事業のこれからも、ずっと見守っていききたいなという風に思っております。意見にはなりませんけど、お願いします。

委員 林業用苗木生産事業について、杉苗木の不足対策とありますけど、この杉の苗木というのは花粉症対策は取られている様なものを植えているのでしょうか。教えて頂けたらと思います。

事務局 杉の苗木の不足対策、これは後戻って説明いたしますと、佐伯のかなりの面積を占める森林のうち、杉の面積は非常に多くてその切り出しが今進んでいるという状況です。そのまま放置できないので、すぐに山林の所有者あるいは管理者は、植林をして山を再生していかなければならないという事が義務付けられている訳で、その杉の苗木を確保したいんだけど、なかなか苗木不足で十分まかなえないという事が状況としてあります。それで森林組合等々が中心になって杉の苗木を生産するという事を取り組み始めたんですけども、杉の苗木というのは立っている杉の枝の先を切ってそれを土の中に刺して、根の張るのを待ってそれを山に持って行って植えると、こういう様な基本的なシステムになっております。

という事で、今の御質問にありました花粉症対策で杉の花粉の少ない品種をという事は今は行われていません。基本は佐伯市にある杉の若芽をそのまま利用していると、こういう状況であります。という事で花粉症対策は含まれていないという事です。

委員 まず今日御報告頂いた先行分は経緯を委員の皆さんと共有したいんですけども、要するにここの審議会の始まる前の段階で、既に佐伯市でプランをお作りになって申請して認められたものですね。

事務局 説明が不足しておりますて、申し訳ありません。本審議会が開催される前の段階で、佐伯市から事業計画を国の方に上げた分でございます。

委員 今日ここで配布された資料で基本目標とかに入れ込まれていますが、これは後付けと言うか、この審議会で基本目標を4つに整理した後にそれに当てはまるように、し直したという事です。この審議会で基本目標を4つ立てる前に、こ

の事業を申請なさる時にそもそも目標というか、何をやってこれらの事業を設定したのかという事についての説明がむしろ伺いたい。

もう1点の質問は、未着手のものが来月という話でしたけれども、来月までに実施するという事で何が出来るのかという事、今実施途中で集約が出来ていないという事なのかもしれませんが、未着手であるという事自体がこの設定がかなり困難な条件とか環境にある事を、あえて厳しく言えば、考慮せずに設定したのではないかという様な疑問が沸くわけですけども、その点について教えて頂きたいと思います。

事務局　まず1点目の地方創生先行対策事業として説明しました事業が、審議会の開催される前、また総合戦略が出来上がる前に申請しているという点について、何を目標に考え、これら事業を申請したのかという点について、ご説明します。何を目標にという点につきましては、佐伯市においては総合計画というものがございます。佐伯市のまちづくりについてそれぞれの分野、産業分野でありますとかまちづくり分野、また産業の中でも商工業とか観光業、農林水産業に分けて目標立てを行っています。それら目標に基づいて新しく行おうとする事業を、今回の国の地方創生の取り組みに計画として申請したという形でございます。ですので、佐伯市の総合計画に掲げられている目標に沿って行う事業として考えております。2番目の未着手についての整理でございますけれども、こちらの文言の表現が至らぬ部分があったのですけれども、あくまで平成28年度の当初予算を構築する際に未着手であった事業でございます。ですので、現在の状況としましては、各事業の進捗についての集約が、現在の状況ですんでいない事業となります。また一部事業につきましては、大分県との連携事業も含まれておりまして、数値の目標については、大分県において把握するという事業もございますので、県のスケジュールとの兼ね合いで現在の集約がすんでいない事業も含まれており、それらを総じて未着手という表現をしております。ですので、事業としては、どの事業も進行中のものがございます。以上です。

捕捉でご説明します。当初予算の構築する時期をご説明します。16ページをご覧ください。今後のスケジュールと書いておりますけれども、市内部と書いております青の部分をご覧ください。こちらが一番下に平成29年度当初予算編成と書いてある四角がございます。こちらの当初予算編成時期については例年同じ時期でして、なぜかと申しますと議会の開催の時期に合わせて当初予算を作っておりますので、例年こちらに示しております10月頃を起点として12月にかけてと、そういった時期に次の年度の当初予算を作っております。ですので、今回説明した資料につきましては、およそこの時期に成果の状況等を判断したものと考えていただければと思います。補足の説明は以上です。

委員　丁度今日の午前中に九州一佐伯ツーリズム重点戦略の佐伯地域戦略推進会議というものがあったんですけど、そこの中で今日お越しの商工会議所、それと番匠あまべ商工会さんと大分県さん・佐伯市さん・J F さん・J A さんと観光協会と8団体で今、作っているんですけど、資料の中にあります戦略自体が28年度ま

でで今の改訂版というのが終了して、佐藤部長さんが南部振興局から来られていますけど、今日も事務局を務められたんですけども、この先の 29 年、その次という形でここにある人口のこれからの推移であるとか住民基本台帳の人口の移動報告等々が、脈々とこれから年を追って続くのに対して、今の観光戦略が目標値が道の駅等のレジカウントであるとかという所ですけど、一貫してこれから観光という部分が、佐伯地域の全域にわたっての地場産業×観光でふるさと産業になっていくのかなという思いがありますので、観光産業だけに特化して書かれている所にこれから若干そういうニュアンスを入れていったらどうなのかなと思いました。進んでいる地域は来訪者が何万人来れば良いとかそういう問題じゃなくて、観光消費額という様な所で推移を計っていつています。観光消費額を上げるには宿泊がやはり増えないと駄目だとか、そういった所もありますので、これから佐伯市の観光の観点からいくと、外部から佐伯にとっては大きなホテルが出来始めておりますので、スポーツツーリズムとかそういった所とこれからの宿泊、本当は外部のホテルさんが入ったきっかけに、今あるビジネスホテルさんとかホテル業界が切磋琢磨して良くなっていくのが一番良いと思いますので、そういった観光だけを特別にそこだけで数字を出すのではなくて、もうちょっと幅広い数字の出し方が必要なのかなという風に思いました。今叫ばれてますインバウンド、海外誘客という観点がまだ佐伯には一つも入っていないんですけど、これから 2018 年に大分県が国民文化祭を誘致して頂いたので、足元の文化を今一度見直して、そして 2019 年ラグビーのワールドカップがあつて、2020 年がオリンピックがあるという所を考えると、これから佐伯にとってもインバウンドの消費というものが外せないかなと思いますので、その辺が全然ないのかなという風に思いました。以上です。

委員 我々が何を話し合ってきたのかという事を確認するために、幾つかまとめて確認とお尋ねしたいことがあるんですけども、それぞれの関わりのある業界だとか事業であるとか各分野の方が、共有する目標があつてその中でそれぞれの皆さんの役割が何なのかという事が自覚されないと、それぞれがバラバラに何かをしているという事がいつまでも続くんじゃないかという気がしていて、今回この国から降ってきた地方創生絡みの事によって何を見直したかという、人口トレンドを改めて見直すことになったわけです。人口トレンドを見直した結果として、人口に沿って目標を設定して対策を取ろうとしているわけですけども、今までやってきた事がある、佐伯市は何もやってこなかったわけではなくて、いろんな事を産業振興にせよ様々な事をやってきた、今までやってきた事がある意味でやった事でもあるわけです。

しかし、実績として人口が減少しているわけですから、今までやってきた事が人口の減少の歯止めにはなっていないとしか言いようが無いという事が出発点にあるんじゃないかと思うんです。

17 ページの資料をざっくり整理すると 5 年間で人口が 4,348 人減っていると。これは社人研推計よりも減り方が早くなっている、5 年間で 4,348 人ですから、

単純に 25 年後という事になると 23,740 人になって、2040 年の段階で 48,463 人になると。この時点で目標とは違っている。それが現状なわけですけども、目標は 48,463 人ではなく、5 万人を超えている事にしたい、つまり差は 1,600 人くらい増えれば良いわけです。その下の段の棒グラフを見ると 10 年間の平均が、社会増減の差は平均すると 419.6 人が毎年出ているという事になります。10 年平均にすると。ですから 1 年間に 419.6 人、社会的には流出しているわけです。これは死亡・出生の差ではなくて社会的な増減の問題。だから $419.6 \text{ 人} \times 25 \text{ 年}$ すると 10,490 人になって、23,740 人のうち 10,490 人が社会的要因であり残りの 11,000 人ちょっとが亡くなる方と生まれる方の差で生じているという事になるわけです。亡くなる方を減らす・生まれる方を増やすという事によって帳尻を合わせるというのは非常に難しいというのは、直感的に分かっていただけていると思うので、いかに社会減を減らすのかという事が問題です。

つまり、年間平均して 419.6 人が減っているものを例えば半分に出来るだろうかみたいな話を考えた方が良いというような。その時にどの施策が入口か。今いる方が亡くなる以外の要因で出ていかなくする為には何が必要かという考え方が一つと、更に入ってくる方を増やすという考え方の中で、この差が埋まっていくんだと思うんですけども、そういった整理のもとで全ての施策が考えられているのかという事が依然として共有されていないのではないか、私たちも含めて。今いる人たちが出て行っている状況をどうにかしないといけないという事があるし、一方で呼ばないといけないという問題、その割合が年間 419.6 人出て行く人の方が多いわけですから、これを目標値で 1,500 人を引き上げる、減速させる為に引き上げるとすると 25 年間で 1,500 人ですから、年間に直すと 40 人位ですか。419 人転出超なのを 350 人転出超に出来れば目標を達成出来るわけです。

つまり、50 人近く外に出ていかないようにするか、50 人近く中に入れるかするという事を考えれば、若者が何かを学ぶ為に佐伯市を出ていくというのは個人の人生の選択として止めるべき事ではないと思うので、その数は最初から引くべきだろう、その上で尚 50 人が出ていかない様にする、ないしは 50 人を呼ぶというのは何なのかという事を考える具体性を持たないと、いつまでたっても目標は空疎な目標のままではないかという気がしていて、そういう目標の設定の仕方をした後、ここにいる皆さんの関わっておられる事業であるとか団体が何をすれば、その 50 人のうちの何人かを確保出来るのかという様な整理の仕方をしないとイケないんじゃないかと思うんですけども、次回の会議までにそんな事は出来ないと思いますが、そういった発想のもとで予算編成に反映しないと目標は実現出来ないんじゃないのかという様な気がします。

委員 言われたとおりだと正に思うんですけども、この事業というのは今まで佐伯市が行ってきた事業の流れをそのまま踏襲している様な感じがして、今まで何回か話し合ってきた事を踏まえての事業というよりも、国がこれに予算を付けますよという感じの事を今までの流れで言葉にしてやっている様なので、これを実現したからといって人口減少という根本的な原因の解消にはならないなと思っていました。

原因と結果がある様に、原因は何かをまずつきとめて、それを良い結果に結び付く様な事業をやらないと話合ったという結果だけで終わってしまって、本当の意味での人口減少の歯止めにはならないと思います。本当に頑張ってください。

もっと何で人口が今まで減ってきたのか、移ってきたのかとかの一つの具体例でも良いんですけど、それを突破口に具体的にここを推し進めればもっと人が来るんじゃないか、その為にこういう事業をしましょうとか、そういう意見が出てしかるべきだと思うんですけども、実際この事業自体も形合わせだけで実現するのは難しいですよ。ずっと同じ様な事業、空き家バンクの事業もだいたいやってますよね。でも何の結果も出ないのか出ているのか分からないんですけど、素人で考えると空き校舎があるから、あそこに地域の自営業者をみんな集めてテナントとして入ってもらって活性化を起こすとか、そんなに予算もかからず廃校舎利用にもなるしとか、いろいろそんな風な考えにはなるんですけど、こういう事業をやりなさいと言われたら身構えて何も出来ません。やる意欲も出ないです。

委員 今年度は、この審議会と並行しながら国の予算を取る作業をしているという所がどうしてもあるので、確かに 27 年度出ている事業が私たちが今まで話してきた事は何だったのかという思いがあるかな、とは思います。今までの発言とかこれからの発言がこれからの施策なり戦略の改定に反映される為に、という事で発言を今日以降も検証という形でこういう機会をもらっているのだという風に踏まえて、発言をさせていただく、お願いがあるとすれば、大きい紙（全体像の A3 用紙）が皆さんに行っていると思うんですけど、これが総合戦略の全体像という事で、その中の 27 年度の施策とか 28 年度の当初予算で要求している方向がありますというご説明だったと思います。28 年度の予算で方向性として出しているのが資料の 15 ページに一部という形なんですが上がっています。照らし合わせていただくと、前にも発言したんですけど「人の流れを促す」という事で佐伯市は結構移住者数は大胆に今 15 名から累計で 300 人という事で出しています。それに比較して空き家バンクの登録というのは、それに対して 30 件という事で 10 分の 1 だなどという所にアンバランスを感じます、という話を前に発言させていただいたんですが、15 ページの資料でいくと例えば就農者について、4・5 番で 5 番の中では新規就農者の為の研修を行いますと、4 番では新規就農者の家賃を補助しますというのがあるんですけども、南部振興局の方でも生産流通部の方で新規就農者の移住とか、佐伯で食べていける仕事の一つに農業という選択肢があるんですけど、なかなか来ていただけないとした時に、県外の相談会の時に農業に興味があります、大分に来たいですという方もいらっしゃるんです。そうした時に、生産流通部の方でイチゴはどうですか、菊はどうですか、こうやって作りますよという話をお繋ぎするんですが、そうした時にその方がどこに住むのかという所がプツンと切れているんです。お仕事のアプローチもそうですし、その方がどこに住むかどうやって生活するのかという所が切れているのではなくて、出来れば一緒にやる様な仕組み作りというのを考えていただきたいなという

風に思っています。そういう方向で取り組んでいただければありがたいなという
お願いです。

委 員 先ほど移住者の話が合ったんですけども、26年度15人の方が移住してきてい
るという実績が上がってきているんですけども、内訳として定年退職した人が
帰ってきた分も入っているのか、若い働き盛りの人が敢えてこの佐伯の地を気
に入って移住してきたのかどうなんですか。

事務局 15人の内訳を申しますと人数になりますので、世帯としては半々です。現役世
代の世帯の方、そしてリタイア世代の世帯の方が半々で、半々ではあるん
ですけど現役世代の方はお子さんがいらっしゃるの、人数としては15人という
様な数字にはなります。

現役世代の方が実際どこから佐伯の方に、施策によって移住しているかと申
しますと、その多くが大分市と津久見市の方です。ではなぜ佐伯の方を選んだか
と申しますと、お聞きした限りではありますけども、自分の通勤圏内、勤務先が津
久見であったり大分市で通える距離にありつつ、かつ自分の親の介護が必要に
なったりとか、そういった事があるので地元に住みたいという出身の方が現役
世代は多い状況です。

リタイア世代に関して申しますと、傾向は現役世代に比べますと都市部の方を
含んでいます。都市部と申しますのは九州管内ではなく東京圏、東京都であり
ますとか横浜・埼玉といった地域の方が移住されてきています。必ずしも出身
というわけではございませんで、旅行していく中でたまたま大分に来て、温暖な
地域で住みたいという事で佐伯の気候を好まれて移住される方が多いという
様な形です。

委 員 私の母のいところになるんですけども、千葉に住んでいまして定年退職して蒲江
に帰りたいと。ですが自分は長男でもないから住む家も無いと。でも家はお金
を出せば空き家もあるから買えるだろう。でも帰ってもする事が無い、畑でも
あればするんだけど畑はなかなか貸してもらえない、どうにかしてくれ。と
言われた事があったんですけども、空き家バンクは空き家バンクでいつも言
われるんですけど、どうして土地とセットでとか、定年退職した60代とな
ると農業の中では若手なんで、そういう人も生産人口として考えられる
のであれば、そういう所もセットとして農地と一緒に世話をするとか、
そういう感じでやれば人口は移ってくれる人は多くなると思うん
ですけども、事例もあるんですからそれをより具体化・システム化した
様な感じで事業を立ち上げれば、そんなに難しい事ではないと思
うんですけども、国が出して県が出してそれに付随する様な事をやる
からどこも同じ様な事をやって、佐伯市ももれずパッとしない事にな
って人口が減って悩んでばかりで。何かやりましょう、本当に。

委 員 10月以降に福岡県で1つ、長崎県で1つ、大分県では豊後高田市を移住の問
題で調査する機会がありまして、豊後高田市は全国的に有名だとされて
いて成功事例、それでも人口は減少するという事は前提になっています。
今のご指摘に全

く賛成で、どこを回ってもこのレベルの話は何も変わらないんです。成功していようといまいとこのレベルで言うと、みんな同じ事を掲げている様に見えるので、今のご指摘の様に佐伯の中でもこの地域はこういう人がこういう理由で出て行っている・入ってきているというレベルで、調べて考えてそれに合った何かにお金を注ぎ込まないと多分 1,700 超える自治体が全部同じ事をやっているという状態になっていると思います。ここで出てくるアイデアも 1,700 の自治体で同じ様に語られている事だと思います。いくつかの審議会で、インバウンドの話が先ほどありましたが、どこでも出てきます。それでは結局、日本全体の人口が減少しているんだから、お分かりの様に奪い合っている状況にあるわけです。

ですから、何度かこの場でも発言させていただいたんですけども、増える事はないという事を前提に何をするかという事も、もう一方では考えないといけないという事です。この目標も見えていただいて減り方をブレーキを掛けるという目標しか立てていないわけであって、増えはしないし横ばいでもないわけです。だから 2060 年に 34,000 人なのか 43,000 人なのかという違いはありますが、今よりも少ないわけです。だから一方で、私たちのやらないといけない事は、最悪であれば 34,000 人になった時に尚、佐伯市で暮らし続けられる為に今は何を準備しなければならないか。この話は常に抜け落ちていると思うんです。それは佐伯市だけでなくほぼ全ての自治体でそうです。今、国に旗を振られて目標を立てて概ねブレーキを掛けるという、ブレーキを掛けても減るんだ、減った先に尚その自治体で人が暮らしていく為に何を準備しないといけないかという議論はまだ始まっていないんです。私はこの審議会はそれも視野に入れて議論した方が、佐伯市の皆さんの為になるんじゃないかという風に思っています。

委員　私は今、福祉の仕事をしています。誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくりというものを目指しております。どうしてもこの事業計画によると観光という話が出ておりますけど、私はやはり大事なのは住んでいる方々がいくつになっても自宅で長生きをしていただく、佐伯が好きで佐伯に死ぬまで住んでいただきたい、そういう希望があります。理由を言いますと、湯布院はもともとは観光地ではなくて田舎で物静かな温泉の街でした。観光地になった故に、今まで安心して暮らしをしていた方が、街が賑やかになった事によって、住みにくい街になったというのを実は湯布院の社協の職員さんから話を聞いた事があります。確かに人をどんどん呼んで地域が盛り上がり人が増えて、観光地になるというのも勿論良い事だと思います。ただ一番大事なのは私たち自身が佐伯の街が好きにならないといけないですし、ここに最期まで住みたいという希望が必要だと思いますので、見ていくと子育ての部分ではこども福祉課の関連が少し載っていますが、これから高齢化になります。やはり高齢者が生きがいを持って住みやすい街を作っていく為に、私も何か提案出来れば良いかなと思っています。以上です。

委員　いつもこの会議に出席して感じているのは、それぞれの方が意見を出されるんですけども、自分とあまり関係のない事のお話になると、どうしても何を言っ

ているのか分からなくてポカンとしてしまう所もあるんですけども、折角先生が良い提案をしていただいているんですけども、それについて皆でどうしていったら良いのかなという様な話をしていけば良いのに、順番順番に話をポンポンとするだけで話がまとまっていないなというのはいつも感じています。私も高齢者の方に携わっていますので、ここにあります高齢者の事業ありますけども、地域支援員設置費の事業とありますけども、全く聞いた事も無いですし、成果を上げてると書いてありますけども、どういった事業なのかというのも全く分からない状況でありますので、住民の為の事業であるのにほとんど知らない方が多いというのが、佐伯市の方の宣伝下手という所もあるんじゃないかなというのはいつも感じている所です。以上です。

事務局 確かに今までの会の進め方としてご意見を多様に頂くという主眼があった為に、議論の深まりという部分に欠けていた部分があるのかなと思います。ご指摘の通りです。次回開催方法、又こうやってロの字に多少距離のある形で囲んで会を持つのかどうか、そこも改善したいと思っております。よりくだけた、それぞれの委員さんの距離も近い会の持ち方の方が良いのかなと思っています。これはまだどういった会を持てるのかどうかというのは、今すぐにはお答え出来ませんが、次回の案内の中でお示ししたいと思います。ありがとうございます。

委員 今なかなか一つの事に議論が深まらないんじゃないかという話ですけども、設定されている目標が非常に難しいというか、なかなか解決の手段が見つかりにくいというか、仕方がないのかなという風にも思える所がありまして、どうしても自らの所に話が集中してしまうんですけども、皆さんに参考になる事を私の方で人口減少に対応する対抗策という事で、私の方は農業なものですから、農業の話で差し上げると、なかなか農業就業者の目標というのは新規就農者を上げていくという目標は、県の方でも進めているわけですけどもそんなに大幅に増えるという目標は実際問題なかなか立てにくい所がありますし、半分位は自営で農業をするというよりは雇用で雇われる人を含めての目標になっているので、県全体の2015年の計画が出ていますけれども、県全体でも…農林水全部合わせても多分400人程度の目標になっていると思います。確かに県が各地では就農学校とか整備してやっている所もあるんですけども、佐伯市の場合はそこは無かったですね。それで今年からファーマーズスクールという事で、同じ様にこれから取り組んでいかれようとしているんだろうなという風に思っている所です。

金融の方が表に立ってというのは、実際問題難しくて、持ってきていただいたものに対して償還の可能性を見てお貸ししていくという事が基本になります。正に地域の方で考えていただくというのが基本になるんだろうなという風に思っている所です。

それから先ほど空き家の話とかもされていて、私の所は去年から新規就農の貸し付けが始まっていて、案件がいろいろ上がってきますので見ますけど、印鑑証明とか何かを見ていると公営住宅的な住所にされているのが多いかなというのが印象としてはあります。東部振興局管内とか豊肥の管内でも案件が上がって

きますけれども、多いのかなというのが印象としてありますので、空き家もありますけれども住宅の関係も合わせて整備していくというのが必要なのかなという風に思います。

委員 先ほど副会長さんがおっしゃられた様に、この地方創生総合戦略における定住促進策というのは地域間競争というか、それぞれの自治体が手を挙げていろんな施策を組んでくると思うんですけども、佐伯市に定住者を増やすというのは方向性としてはやはり、より住みたくなるといって優遇措置というのが必要になってくるんじゃないかと。先ほど佐伯市出身者ですけど大分市とか津久見市の方に通勤でこちらに住まわれている方も多いと聞きますので、高速道路も出来ておりまして大分市とかの通勤圏内にもありますので、可能かどうか分かりませんが交通費の片道分の補助とか、こちらに転入して家を建てられる方には固定資産税の一定期間の免除とか、企業誘致の場合はそういった事がある様に聞いていますので、進出企業にはある程度の期間、固定資産税とか水道料金を免除するという様な事があると聞いていますので、それを居住者向けの優遇制度の様なものを創設していただければ、より住みやすくなりますし、本当を言いましたら人手不足の時代ですので、市内の企業に勤められるのが一番宜しいかと思うんですけども定住促進を加速する意味でも、通勤圏として転入者に優遇措置をとる事をお願い出来ればなと思います。以上です。

委員 まず一つご提案ですが、ここに忙しい時間を割いて参加なさっている皆さんにとっても、何か手ごたえのある場所にならなければ継続性が維持出来ないんじゃないかと思えますし、先ほど岩切さんの方からやり方を変えたいとおっしゃいましたが、少人数グループで次回何かものすごく具体的に、この10年間平均で419.6人を350人水準に持っていければ目標として2040年に5万人を維持出来るわけですね。年65人を外に出ない様にする、出ない数を毎年確保するという事の為に何が出来るのかという形で、少人数の方が自由に発言しやすいでしょうし、4グループか3グループに分かれて話し合う形式で、次回時間を取っても良いんじゃないかというのが1つのご提案です。

もう一つは先ほどお二人の方の発言がありましたけれども、私も最初の発言の時に申し上げたんですけども、出ていかない様にするという発想です。ともすれば引っ張って来るという風になるんですけども、出ていかない様にするという事が一番最初に試みないと然るべきではないか、その時に私が関わっている対馬市の場合はこどもさんが島外に出ていく、そうすると高齢になった親御さんを福岡に引き取るとか、お子さんのお住まいの街に引き取るという事で高齢者が流出するわけです。八女市も佐伯市と同じ様に合併して中山間地域を広く持っているんですけども、そこでも八女市の中心部にお子さんがいれば八女市の中に住民として留まりますが、大抵は久留米市か福岡市に行っておられて、そこに出ていくという事によって高齢者が流出するわけです。対馬市の場合だったら島ですからその暮らしに馴染んでいて、人間関係もあるので離れたくないんだけど、さ

すがにここまでくるとこどもさんの世話になるしかないという形で泣く泣く出ていかれる高齢者がおられる。それをお子さんがいなくても社会で抱えて生活できますよ、と言えるだけでも、そういう人は出て行かなくなるわけです。そうすると結構、年間 65 人という様な形のものについては、高齢者の方が支え合って住む、あるいは近隣の世代の異なる方と一緒に何か出来る様な環境があるだけでも、家族に頼る為に佐伯市を捨てるという事が無くなるんじゃないのかという気がしますので、そういった事はもっと真剣に追求されて然るべきではないかという気がします。

委員 私もご意見に賛成なんですが、次回のグループワークをした時に出た意見がどれだけ次に、私たちが考えている施策に反映されるか、話しただけじゃなくて何かの形で反映してもらえる様な後の処理の方法を市の方がしっかり考えていただいて、皆様のご意見を事業に反映させていただきたいと是非お願いしたいと思います。そして私の方は高齢者の方のお話もありましたが、障がいがある方が佐伯の中でもたくさんいらっしゃいます。

ただ、身体障がいの方が前にも話したと思うんですけども、なかなか暮らしにくいという事で大分・別府の方の障がい者雇用の盛んな、車いすでも働ける会社だとか工場に出ていかれているんです。企業の関係の方もいらっしゃいますけど、能力的にはすごく高くてただ体が不自由だという様な事で仕事はいろんな事が出来る方たちもいらっしゃると思うんです。そういう人たちが佐伯に行けば仕事があるよと、反対に仕事しに来てくれるとか、先日のニュースで佐伯市の運動公園の所にバリアフリーの宿泊所を佐伯市が作るというニュースがありました。オリンピックの関係かラグビーの関係で練習の為にキャンプを張る為に、そこを使ってもらいたい事だったと思うんですけど、そうすると今度そこに行く為の移動手段として、パラリンピックの方なんですけど、体が不自由な方が移動するとなると車か何かになっていくと思うんです。だけど車だけだと移動手段として JR を使うという事が無くなるんです。佐伯駅は、私は福祉フォーラムというものを 14~15 回ほどやってきたんですけど、なかなかエレベーターが付かないんです。いろんな事で困ってるんです。体の不自由な方だけがエレベーターを使うじゃなくて、高齢者も使える。そうしたら JR の利用が増える。ベビーカーを持った若い人たちも使えと。良い事はいっぱいあるんだけど、なかなかそちらに向いていかないので、宿泊所をきっかけとして佐伯市が高齢者にも障がい者にも優しい環境整備が出来ていけると嬉しいなと、個人的にはすごく思っていますので、そういう事も反映の中に入れていただけたら有難いなと思っています。以上です。

委員 なかなか私もいろんな業界の方がいていろんな話をするので、難しいなと思うながら聞いているんですが、私は林業の話しか出来ないんですが、私たちの業界も人を確保するという所の入口が非常に難しい業界です。私たちは事務方なので月給制という所で働いているんですが、現場の方はほぼ請負の形で働いております。先ほど先生が言われた中でどうやって人口を、という話があるんですが仕事

はたっぷりあります。人もいります。でも、なかなか人が来ないという所なんです、この7、8年で「木を切る方の山をする方」と、「木を植える方の山をする方」というのは全く同じ林業者でも全く別なんです。木を切る方は、この7、8年で倍になりました、人数は。山を植える方の方というのは実は足りなくなっているという、人口が減少しているんです。木を切る方の方はこの何年間かで増えたんですが、どうして増えたのかなという、私たちが育てたわけじゃないんです。増えた理由は仕事があったというか、非常に魅力のある仕事があって、ほとんど請負制という事でやればやっただけお金になるという仕事があったんです。そこに20代・30代の若手のグループが1班増え、2班増えという、元々が土木系の人たちが林業系に入ってきて土木の世界で請負というのは分からないんですが、私たちの世界では基本これだけやったらいくらという世界があって、そこに魅力を感じて人が増えていったというのが現状で、かたや造林部門に関しては上が決まっています。決まった単価の中での請負になるので、なかなか魅力が無くて人が来ないというのが現状です。ここに私たちも力を注いで人を増やしたいというのが本音で、ここ13ページに地域人材育成事業というのを書いているんですが、仕事はあります。空き家バンクといった住む所の事業もあります。人材育成という所に一番力を注げば、私たちの業界では人は増えるかなという風に感じております。以上です。

委員 この会議に出るようになって生徒が進学していく時に、この子は佐伯に帰ってくるのかなと思うんですけど、鶴城高校は大学に行く子がほとんどですので、今年もだいぶ頑張ってくれて今の所だいぶ合格が出ております。これから試験が大きなのが残っておりますけれども、そうすると東京の方にととか大阪の方にととかどんどん通っていくと、帰ってくるのかなと、でも帰ってくるのかなと言いながら帰ってきたときに働く所があるのかなとか正直思います。ロケットの研究をしたいと頑張っている子がいたとして、佐伯でロケットというわけにはいかない、薬の開発をしたいと一生懸命勉強をしている子がいて、佐伯で製薬会社で研究を、とかなかなか難しいので、そうしますとこの子たち頑張ってどんどん夢を広げていくんだけど佐伯には帰ってこないから、確実に鶴城高校1学年240人、1年生は200人になりましたけれども、鶴城高校を通してそのまま外に行って帰ってこないのが相当いて、社会減は鶴城高校なのかなと思ってしまう時もあるんですけど、生徒は外に向かって行っていますが、帰ってきたいという子もおります。

今年の生徒の特徴で、1年生の時に大手前の再開発か何かの取り組みか何かがあった様に思うんですけど、その時の子たちが将来どうしたいのと言ったら、佐伯に帰ってきたいと言うんです。そういった経験がすごく影響している様で、ただみんな佐伯市役所にいれてもらえるわけではないと思いますので、勿論卒もあるでしょうし、そういった経験が自分たちの地元に目を向ける良いきっかけになっている、特に今の3年生は参加している子がかなりいて、そういう視点を

持ってまた地元の方に目を向けている子が去年よりも多いという事がお伝えしておかないといけないかなという風に思いました。

もう一つが、延岡にある九州保健福祉大学、前にお話ししたかと思うんですけども、高速道路が出来まして非常に佐伯からも便が良くなったといった所ですけども、最終的にまだ何人合格という段階の話ではないですけども、現段階で合格者数が去年より少し多く出ています。明らかに大学があると若い人とそれにまつわるものが集まってきますので、佐伯にも大学を作ればと前にも言ったかもしれませんが、そうしたらすぐに改善されるかと思います。それを延岡はうまくやったのではないかな、大学を誘致したというのは。佐伯から大学や専門学校に進学する時は、ほとんどのケースが下宿して例えば大分であっても大分にアパートを借りたりとか、そういった形になりますので、クラス担任をしていた大学4年生たちが、就職先が決まりましたという時に連絡をくれるんですけど、佐伯に帰って来るかと思ったら佐伯じゃなくて大分ですと。看護師になる子たちが、これでだいぶ佐伯に帰ってきてくれるかなと思ったら、大分の病院に勤めますと。そういう話を1つ1つ聞くと、この会議に出ていると、私の所を通して出ていった生徒たちが帰ってきていないなど。どうもすみません。そういった状況で、ただ帰ってきて働く所があればやはり皆、佐伯が好きと言います、大学4年生に聞いても高校3年生に聞いても。この子たち、本当に佐伯が好きなんだなど。そういう状況がありますので、働く先があるのかなと、それともう少し高校生の段階で、大手前再開発ではないですけど、そういうものに関われたら、もう少し意識がこっちに向くのかなという風に思っております。勿論私たちも高校現場でなんとかそういう事をしなくてはならないなという風に思って頑張っております。ここに来て私がすごい事が言えるわけではないんですけど、高校生の進路意識、今の様な話であればいくらかでもお話しますので、またの機会があればさせてもらいます。

それから少し気になった事があって、資料の14ページにキャリア教育講演会事業について、進路指導の仕事をしていて、こういった事業を今年市がやっていて、どういった形で私の所に話がきていたのか、鶴城は就職する子がほとんどいないので、でもこの話だと将来地元で働く職業観だという事ですので、取り組みは私たち現場とどれ位組んでやっているのかなとか、だったら佐伯市内の進路主任を一回集められてからそういう話とかでもなかったから、これはどういった形で行われているのかなとか今後どういった形になるのかな、とかいうのが気になりました。以上です。

委員　　うちの娘が鶴城から大学を卒業して帰ってきて佐伯で就職をしています。学校教育課の方から夏位でしたか秋に、彦陽中学校の方でキャリア教育の講演会に呼ばれて行きました。そういう経緯もあるみたいです。だからこれがそうかなと思って私はそこを見ました。それと先ほど佐藤さんが言っていた地域支援員、直川は入っているんですけど、この方いらっしゃるんですが直川で何をしているのか私も分かりません。民生委員をしてるんですけど、民生委員会に一度来てご紹介はしていただいたんですけど、村のお祭りで見たのと保育所の餅つき大会に来

たのは聞いています。後は何をしているのかちょっと分からないなという事で、もっといろんな所に出て行っていただけると良いなと思います。あと、空き家バンクの件もタイムリーに先日、民生委員会の方でどこか直川空きがありませんかという話を出しました。直川に住みたいという方も結構いらっしゃって、家や土地があれば行きたいという人もいっぱいいるので、是非空き家バンクをもっともっと広い範囲で登録出来る様に動いていただけると嬉しいなと思います。

里親の観点から最後に言わせていただきますと、佐伯市も里親がどんどん増えています。里親を増やして里子ちゃんを佐伯市に、佐伯で子供を育てるのはとてもすごい良い事なんです。とても良い教育環境が整っているんで、直川が一番お勧めですけど、佐伯市で是非子どもたちにのびのび育っていただきたいと思うので、里親さんを増やすのにも皆さんのお力をお貸しいただけたら嬉しいなと思います。以上です。

委員 私たち、商工業者にとりまして人口の減少という事はイコール商工業者の減少に繋がっております。それで、いかに私たち商工団体が生き延びていくかは、やはり人口をいかに減らすのを今後真剣に考えて、減っていくのは先ほど先生が言う様にどうしようもない事だと思います、これからは。毎年うちの会員さんが15人～20人位会員数は減っていております。その分新しく入ってもらえる人もおるんですけど、このままいけば恐らくあまべ商工会としては生き延びて行くのは非常に厳しい時代に入っていくという事なので、ここ5年位は商工会の存続を掛けてあまべ商工会としては、真剣に商工業者の為に頑張っていきたいと思うんですけど、やはり真剣に取り組んで事業を拡大していこうという企業と、もう高齢者の為どうしてもここで店を閉じてしまおうという方がおります。私たちとしてはいろんな補助金があります。そこを活用しながら一生懸命頑張って商工業者の為に取り組んでいこうと今、一生懸命やっている最中であります。

会長 産官学金労言民という事で、幅広い分野の皆さんがお集まりしておりますので、皆様の全員の意見を聞こうという事で今までやってまいりましたけれども、一つの事業に絞って集中して審議するとか、そういう事も必要な感じが致しました。次回は年度末という事でなかなかそこまで行けるかどうか分かりませんが、頑張ってそういう機会を作りたいと思います。

私の仕事上、職場の事でもありますけど、佐伯鶴城高校が今度OB会を同窓会のホームページを立ち上げると。そのホームページに私ども企業で参加しまして、こちらに戻る学生のメッセージを出すとか、そういう事を考えております。皆で連携することで、この創生事業の幅が広がるんじゃないかと思います。

空き家事業とかいろんな福祉の方の職場の確保とか、そういうのもご意見伺いまして、それぞれの分野に持ち帰って皆で協力する事が、人口減少に歯止めを掛ける事だという風に思います。

事務局 冒頭に申し上げるべきだったかと思いますが、先生からもご指摘ありました様に、今日見ていただきました予算時の構築時の評価をしていただきました先行型の分につきましては、このまち・ひと・しごと創生というのは、一昨年26年11月に国の方が施行しまして年が明けて我々に来たのが去年の1月です。それから国の補正予算でありましたから、私どももその事業について具体的に協議する時間も全くなく、平成27年度の当初予算から引き抜いてこの20事業を作ったという形でございまして、内容もほとんどその事を考えたわけではありません。ただ、国のまち・ひと・しごとの戦略が出ておりましたので、それを元に策定したという事でございます。そのK P I も今日見ていただきましたけれども、このK P I というのも皆さんご存じの通り、アウトプットいわゆる結果ではなくてアウトカムいわゆる効果を上げないといけないのですが、その辺の所も良いK P I が出来るものと出来ないものが実際あるんですが、K P I も甘かったかなという風に思っております。それから予算編成時に見たという事で全ての進捗状況、K P I が分かるわけではなかったもので、今日ご意見頂くというのは大変皆さん方も意見が言いくかっただのではないかと思います。大変申し訳なく思っております。

佐伯市は昨年10月末に総合戦略を策定しまして、それを受けて初めて作るのが平成28年度の予算でございます。具体的な内容については、次回の3月24日には間に合わないと思いますが5月あるいは6月の開催の時には事業内容をお示しして、K P I もお示しして、そして意見を頂く事が出来るのかなという風に思っておりますので、今後とも皆様方にはご意見頂きたいと思っております。こういう場でなくても電話でもメールでも結構でありますので、秘書政策課の方にお寄せ頂きたいと思っております。今後とも皆様方にはご指導頂けますようお願い申しあげまして、閉会にあたりましての挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。今後ともよろしくお願い致します。

9 会議の資料名一覧

- (1)佐伯市まち・ひと・しごと創生の全体像（第1版）
- (2)地方創生先行対策事業（平成27年度実施）について
- (3)意見反映状況について
- (4)今後のスケジュール
- (5)人口の最新動向

10 問い合わせ先

担当課 総合政策部 秘書政策課 政策推進係
電話番号 22-4104 内線 586